

Globetrotter
May 11, 2023

タリバン対 IS、アフガニスタンの未来を賭けた戦い

The Taliban and the Islamic State Continue to Fight for
Afghanistan's Future

<https://braveneweuropa.com/john-p-ruehl-the-taliban-and-the-islamic-state-continue-to-fight-for-afghanistans-future>

by John P. Ruehl

リード

タリバンがアフガニスタンを指導する能力には疑問が残り、不安定な状況が続いている。それはイスラム国が勢力を拡大する機会となっている。

以下本文

タリバンと IS の血塗られた関係

2023年4月25日、米国当局は、タリバンがアフガニスタンで活動する「イスラム国」(IS)の司令官を殺害したことを確認した。このIS司令官は、アフガニスタンの民間人170人と米軍兵士13人が死亡した2021年のカブール空港襲撃事件の首謀者とされる。この事件は、今年に入ってアフガニスタンでタリバンとISの間で暴力がエスカレートしていることを示すものだ。2023年3月にはタリバンの複数の高官がISによって殺害されたり、標的にされたりした。逆に1月と2月にはアフガニスタンの複数のIS指導者がタリバンに殺害されている。



タリバンは、アフガニスタンとパキスタンで活動するパシュトゥーン人中心の緩やかな政治運動で、以前は 1996 年から 2001 年までアフガニスタンを支配していた。

2021 年の米国の撤退とそれに伴うアフガン政府の崩壊により、タリバンは同国の支配を再確立したが、2014 年から同国に存在する IS のおかげで、完全な支配を得ることはできないでいる。

当初、タリバンのメンバーの多くは、2013 年と 2014 年にシリアとイラクで領土を掌握し、米欧米軍に挑戦した IS の能力を評価していた。

しかし、米国や欧米への敵視、イスラム教の強硬なスンニ派解釈において共通しているにもかかわらず、IS がアフガニスタンの領土に定着し、アフガニスタン人を自らのカルトに引き込むようになってからは、タリバンは反感を抱くようになった。

その後、タリバン勢力は IS 駆逐に失敗し、最近になって米国政府との再交渉を模索するようになった。

タリバンの内部的弱点

タリバンにはまた、内部的弱点もあった。彼らはアフガニスタン東部で優勢であったサラフィスト派を弾圧し、ハナフィ派を支持した。このような状況下で、IS の持つサラフィー主義的傾向は、この地域の多くの人にとって魅力的なものだった。

また、パキスタンとアフガニスタンのタリバン指導部には深刻な対立があり、IS はこれを利用してメンバーを引き抜くことを積極的に行なった。2014 年にはタリバン幹部数人が IS に忠誠を移した。さらに地域の小規模な過激派グループからの支援も得るようになった。

しかし、IS にとって重要なのは、IS がライバルであるアルカイダから、幻滅したメンバーを仲間に引き込んだことだ。元々、アフガンの IS はアルカイダと行動をともにしていた。しかし政策、戦術、リーダーシップに関する意見の相違から、アルカイダは 2014 年に IS を除名した。それ以来、両者はジハード主義運動の覇権を争ってきた。

タリバンとアルカイダの密接な関係は、かえって IS の挑戦者意識をより強固にするものとなった。

IS のタリバン対抗意識と「ホラサン」州構想

2015年1月、ISは中央アジアの大部分とインド亜大陸を含む「ホラサン」州を創設する構想を発表した。そしてホラサン州構想が、世界カリフ制の確立を目指す取り組みの一環であることを明らかにした。

ISはタリバンを「民族的・国家的基盤を優先してイスラム教をないがしろにする薄汚い民族主義者」と非難する一方、急速な組織拡大を始めた。

2015年、タリバンとホラサンのイスラム国（IS-K）の衝突が激化する中、タリバンの当時の指導者であるムラ・アクタル・モハマド・マンスールは、ISのアブ・バクル・アル・バグダディに書簡を送った。

マンスールはアフガンにおけるISの組織拡大を断念するよう促し、アフガニスタンでの対米戦争はタリバンが主導すべきと主張した。しかし、ISの指導者を思いとどまらせることはできなかった。

今はなきアフガン政府軍が当初、ISとの戦いを避けてタリバンに集中したことも、ISを助ける結果になった。

しかし、ISがアフガニスタンの安定に対する深刻な脅威となるにつれ、アフガニスタン軍と米国主導の国際軍の双方が、ISに攻撃の焦点を当てるようになった。ISが宗教的少数派を標的にしたことで、アフガニスタンの住民の一部との対立も深まった。

ISの弱体化とタリバンの影響力拡大

当初の勢力拡大にもかかわらず、ISは2015年から2018年にかけて領土を失い、戦闘員を減らした。2019年から2020年にかけては多くの戦闘員と指導者が当局に投降した。

逆にタリバンは影響力を着実に高め、アフガニスタン政府と米国政府を戦争終結のための協議に引き入れた。2020年のドーハ協定では、多国籍軍の撤退スケジュールが示され、捕虜交換で数千人のアフガン兵とタリバン兵が解放された。

このときタリバンは、アフガニスタンでテロ集団が活動するのを防ぐことを約束した。ISはこの合意を非難し、タリバンが「米国の主人」を喜ばせるためにジハードから逸脱していると非難した。

当時の、シュラフ・ガーニ大統領は、アフガニスタンにおけるISの絶滅を示唆したが、それは失望に終わった。アフガニスタンは米国の離脱による権力の空白に飲み込まれた。刑務所から脱走したり、解放されたりした何千人もの囚人によって、逆にISのメンバーは強化された。

IS を持て余すタリバン

2023 年現在、アフガニスタンにいる IS の推定メンバーは 4,000 人であり、タリバンの約 8 万人の兵力とは比較にならない。しかしタリバンが米軍に対して用いたものと同様のゲリラ戦法が功を奏し、一部地方で手ごわい相手となっている。2021 年末までに、アフガニスタン IS は他のどの国よりも多くの人を殺傷しており、タリバンと IS の衝突は頻繁に起こっている。

タリバンにとって、IS がアフガニスタンを不安定にすることは、タリバンがわずかに持つ正統性を完璧に失うことになる。彼らはそのことを恐れている。

タリバンは現在、IS-K とほぼ単独で戦っており、以前のアフガニスタン政府軍が享受していたハイテク兵器や航空支援もない。タリバンの指導部は分裂に悩まされ、国際的な認知もないままだ。いっぽう、シリアやイラクで敗退した IS-K にとって、アフガニスタンは数少ない勢力拡大のチャンスだ。それが IS-K が死にものぐるいになって活動範囲を広げる理由となっている。

タリバンの指導者は自分たちの立場を補強するために、他の政府との関わりを模索している。サウジアラビアとカタールはタリバンに慎重ながら協力している。タリバンと協力した複雑な歴史を持つパキスタンは、タリバンとの対話を続けている。

またタリバンはインド、中国、ロシアにも働きかけを行なっている。アフガニスタンの安定と引き換えに 1 兆 ~ 3 兆ドルといわれる鉱物資源を提供する用意をしている。

タリバンに圧力をかけ、結果を出すのが当面の IS の戦略だ。アフガニスタンにいる中国やロシアの人員やインフラが IS の標的にされている。また、タリバンは自国の領土を近隣諸国への攻撃に使わせないとしているが、IS はすでにウズベキスタンとタジキスタンでこの実験を行っている。

タリバンの国際的孤立の理由

タリバンがアルカイダと協力し続けていること、そして女性の自由を弾圧していることが、欧米の協力を思いとどませ続けている。

タリバンがアルカイダとの連携を続けていることは、2022 年、アルカイダ指導者アイマン・アル・ザワフリがカブールで米軍の無人爆撃機により殺害されたことで明らかになった。タリバンは IS やアルカイダの過激な政策

に引きずられている。これを覆すことは、かえって多くの離反を誘発し、ISへ接近することを促しかねない。

欧米の一般市民にとって、20年間戦ってきたタリバンとの和解は難しいことだろう。しかし2021年、すでにマーク・ミルリー統合参謀本部議長はISを倒すためにタリバンと調整する可能性を示唆している。英国の軍トップ、ニック・カーターも同様の意見を述べている。米政府高官も、「タリバンに対する組織的な暴力的反対運動があっても、それを支持しない」と表明している。

アフガニスタン政府はすでに解散した。多くのメンバーはタリバンやISに合流した。タリバンに代わる受け皿となるべき国民抵抗戦線は欠点だらけだ。

実際のところ、欧米軍が支援できるような実行力のある反対勢力はほとんどない。

しかし、アフガニスタンのISとアルカイダに対処するために、タリバンに目をつぶる米国の「オーバー・ザ・ホライズン」アプローチは、それなりの結果をもたらしている。

たとえば2021年のカブール空港襲撃事件の首謀者を狙った無人爆撃機は、代わりに7人の子どもを含む10人のアフガニスタン市民を殺害する結果となった。

それでも2023年4月にタリバンが犯人を射殺したことで、米国は面目を施した。今後このようなソフトな連携やインフォーマルな外交が促進される可能性はある。

しかし、タリバンは依然としてアルカイダの資金協力を依存しているため、形式的な国際的孤立は長期化する危険性がある。アルカイダのような集団に避難所を提供し、シャリア法の厳格な解釈を促進することも、諸刃の剣となっている。

これらの条件は、タリバンが弱体化し、それがISの組織強化を側面支援し、そのために多くの地域で安全が脅かされ、貧困と基本的なサービスの欠如がさらに助長されるという悪循環をもたらす。

ISは今後もタリバンを軍事的に弱体化させ、その分裂を利用するだろう。そしてアフガニスタンが20年ぶりに取り戻した平和と安定をふたたび破壊しようとするだろう。

もはや後戻りはできない

アフガニスタンは1970年代以降の不安定な状況が現在も続いており、地域の懸念、大国の対立、イデオロギーの衝突の温床となり続けている。ほとんどの外国政府はISをより大きな脅威と見なしているが、それだけでは不十分だ。だいじなのはタリバンが脆弱な孤立を解消し、アフガニスタンの平和と安定を実現することをおいて他にない。